

## 酸性湧水の形成機構

### Chemical mechanism of acidic spring water

# 松岡 博之 [1]; 穴澤 活郎 [2]; 富安 卓滋 [2]

# Hiroyuki Matsuoka[1]; Katsuro Anazawa[2]; Takashi Tomiyasu[2]

[1] 鹿児島大・理工; [2] 鹿児島大・理・地球環境

[1] Grad. School. of Sci Eng., Kagoshima Univ.; [2] Fac. Sci., Kagoshima Univ

近年、湖沼や河川の酸性化に伴う魚類等への影響や土壌の酸性化による森林への影響等が懸念され、陸水環境の酸性化が社会問題として関心を集めている。環境中における酸性水に関わる研究については、おもに酸性雨や火山性の酸性地熱水が興味の対象とされ、それぞれに精力的な研究がなされている。これに対して、他の生成機構によって発生する酸性水については、相対的に関心が薄いのが実情である。

かつて鉱山国として知られていたわが国では、廃鉱山から流出する酸性坑廃水が各地で環境問題を引き起こしてきた。また、鉱山跡以外においても非火山性の酸性水の湧出地域が各地に存在している。しかし、これらの酸性水に対する研究は、中和処理などの酸性水対策に関わるものに特化され、本源的な酸性水の生成機構については、あまり注目されてこなかった。

そこで本研究では、坑廃水などの非火山性の陸域酸性水の形成プロセスに注目し、実地調査とモデル実験を行った。本発表では、天然における非火山性の酸性水の調査の結果と、当該調査地域を室内で再現した酸性水の形成実験の結果について報告する。